

奄美

ほころしや

展示のウラ側

～資料調査をとおして～ 学芸課主査 小野 恭一

展覧会で資料を借用して展示するためには、事前の資料調査が欠かせません。ここでは、第60回記念黎明館企画特別展「ほころしや奄美～海と山の織りなすシマの世界～」(会期:令和3年10月1日～11月7日)の開催に向けて行った資料調査の様子についてご紹介します。

文献等調査

所蔵者との相談・交渉

閲覧や撮影の申請

資料調査・撮影

借用の相談・交渉

借用や画像利用の申請

借用

展示

返却

資料調査では、実際に資料を閲覧して、資料の状態を確認し、法量(長さや大きさなど)を計測します。調査によって、資料の材質やつくり、虫損(虫食い)などで読み取れない文字など、文献や写真からでは分からない情報を得ることができます。

展覧会の図録の写真は、借用相手先の博物館や資料館に貸出用写真がないこともあるため、資料調査のときに撮影を行うことがあります。

フィールドワークを行い、その成果を記録します。

許可を得て映像、写真などを撮影し、その一部を展覧会の映像コーナーなどで使用します。

所蔵先の博物館学芸員と意見交換を行いながら、借用させてもらった場合の梱包・運搬方法や展示方法などを考えます。

資料発見

地元住民や教育委員会などの協力を得て調査したところ、龍郷町で新たにノロ関係の資料を確認できました。虫やカビなどを除去した上で、龍郷町教育委員会にお渡ししました。



龍郷町円集落のノロ(女性祭祀者)のサージ



徳之島町郷土資料館における調査の様子



撮影セット



節田マンカイ(奄美市笠利町)



有盛神社(奄美市名瀬浦上町)

所在確認

個人所有の資料は、所有者の転居や死去などで、所在が分からなくなったり、失われたりすることがあります。

資料調査は、資料の原本の所在を確認し、貴重な資料として後世に残すきっかけにもなります。

学芸員 EYES!

学芸員イデオンの
収集資料を紹介します。

第5回
再利用された資料

襖から掛幅に大変身!

よく耳にする言葉に、3R(リデュース、リユース、リサイクル)があります。限りある資源を有効活用しようとする動きです。

写真は、常設展示場2階の玉里島津家コーナーに展示中の掛幅です。蓮の茎に金色の文字が書かれ、「弘化四丁未年三月廿一日 参議源齊興自画(花押)為新造一日画之」とあります。これによると、絵は10代藩主・島津齊興が弘化4(1847)年に描いたものです。

また、箱の蓋裏には、現在の仙巖園の北に齊興が建てた、花倉御茶屋で使われていた小型の襖障子を、文久3(1863)年5月に息子の島津久光が掛幅に作り替えた旨が、記されています。

絵の左右端の中央に、うっすらと円があります。掛幅にする際、襖の引手部分に同じ素材の紙を当てたものです。また絵の中央の縦線から、2枚に分かれていた襖の絵を、1枚に直したことがわかります。

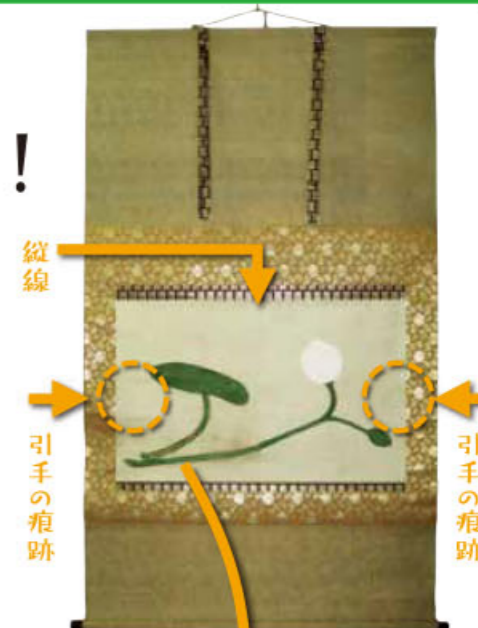
花倉御茶屋は文久3年の薩英戦争後、国分仮屋に移されました。その時にこの絵は襖から外され、掛幅に再利用されたものと考えられます。

ちなみに、花倉御茶屋の建物は維新後に花倉に再建するため解体され、鹿児島に運ばれたものの、明治10(1877)年の西南戦争で焼失しました。

この掛幅は、在りし日の花倉御茶屋を偲ぶ貴重な資料です。

[参考]『かごしま文化財事典』鹿児島県教育委員会、平成14年

学芸調査係長
新福大健
(歴史担当)



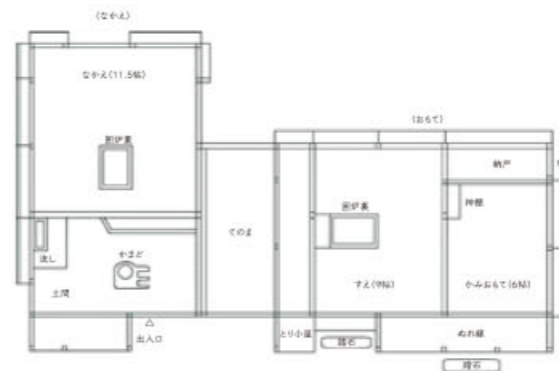
島津齊興筆白蓮図掛幅

黎明館のフカボリ④

敷地散策のススメ

樋の間二つ家(てのまふたつえ)

始良郡横川町下ノ赤水(現 霧島市横川町)の海老ヶ辻(えびがさこ)家住宅を移設したものです。建築の時期は、天保年間(1830～1844)と伝えられています。二つの棟が「樋の間」で連結されている民家は、川内川流域から始良郡一帯にみられた造りです。



黎明館の敷地には、様々な文化財や記念碑が建立されており、自由に見学することができます。



第1・3・5週の水曜日に
囲炉裏で火を焚いています。

- 10:00～15:00の間、火を焚いています。
- 自由に見学することができます。
- 6・7月は毎週水曜日に行います。
- 水曜日が休日の場合、次の開館日に行います。
- 年末年始の休館日は実施しません。